教科教育法におけるワークシートを活用した習得型と活用型の学習活動のカリキュラム開発と評価

○永井　大樹[1)]　本間　啓二[2)]　衞藤　隆[3)]　佐々木　司[1)]
1）東京大学大学院教育学研究科
2）日本体育大学体育学部
3）日本子ども家庭総合研究所

【背景】

「教育課程及び指導法に関する科目」のなかの「各教科に関する指導法」（教育職員免許法施行規則第 6 条）は、一般的に、教科教育法と呼称されている。この教科教育法では、各大学が、教員養成のカリキュラムを創意工夫することなどが提案され、その他の科目の整合性を持つことや教育実習や教職実践演習と連続性があえることが重視されている。（平成 19 年教育職員養成審議会・答申）。そのなかでも、学習指導要領の改訂など、時代の変化や社会の要請に応えることが求められるとともに、教育実習校の要請でもある、授業を組み立てる力や学習指導要領への深い理解、指導計画を作成するための力が求められている。

【カリキュラム開発】

本研究では、教科教育法のカリキュラム改善を目的として、次の目標を設定し、カリキュラムの開発を行った。

○教育実習を目標して、授業づくり（授業の組み立て）、指導計画の作成、ワークシートの作成ができるようになること

○講義形式から、モジュール形式にし、学習指導要領を理解するための調べ学習の時間（30 分）、解説の時間（30 分）、ワークシートを作成する時間（30 分）という時間配分を行った。

○保健の授業づくりのワークシートを作成する際には、新学習指導要領の改訂の要点を踏まえ次のような学習活動ごとのワークで構成させるようにした。

表 1 ワークシートの構成

タイトル　　氏名など	
①学習活動へのレディネス	②知識・技能の習得
③思考力・判断力・表現力育成のための活用型の学習活動	④③に伴う個人ワークとグループワーク
⑤学習活動の振り返り	⑥学習した内容の日常生活や社会生活へのあてはめ

【カリキュラム開発の対象】

2006 年から 6 年間にわたり、N 大学においてカリキュラム開発を行った。その対象は、教員免許の取得を希望する学生（1500 名規模）であった。教科教育法は、1 クラス 200 名程度に分かれており、半期 15 回の講義計画を組んでいる。

【カリキュラムの評価】

カリキュラム開発の中核的な目標である指導計画の作成や授業の組み立てとしてのワークシートの作成を毎回の授業で取り組み、授業づくりのワークシートは 5 段階の評定を行い、さらにそのワークシートの評定と単位時間の指導計画の得点を評価した。